

2025年日本国際博覧会 パビリオン・施設の紹介 (No.9)

# 三菱未来館

【設計】株式会社三菱地所設計

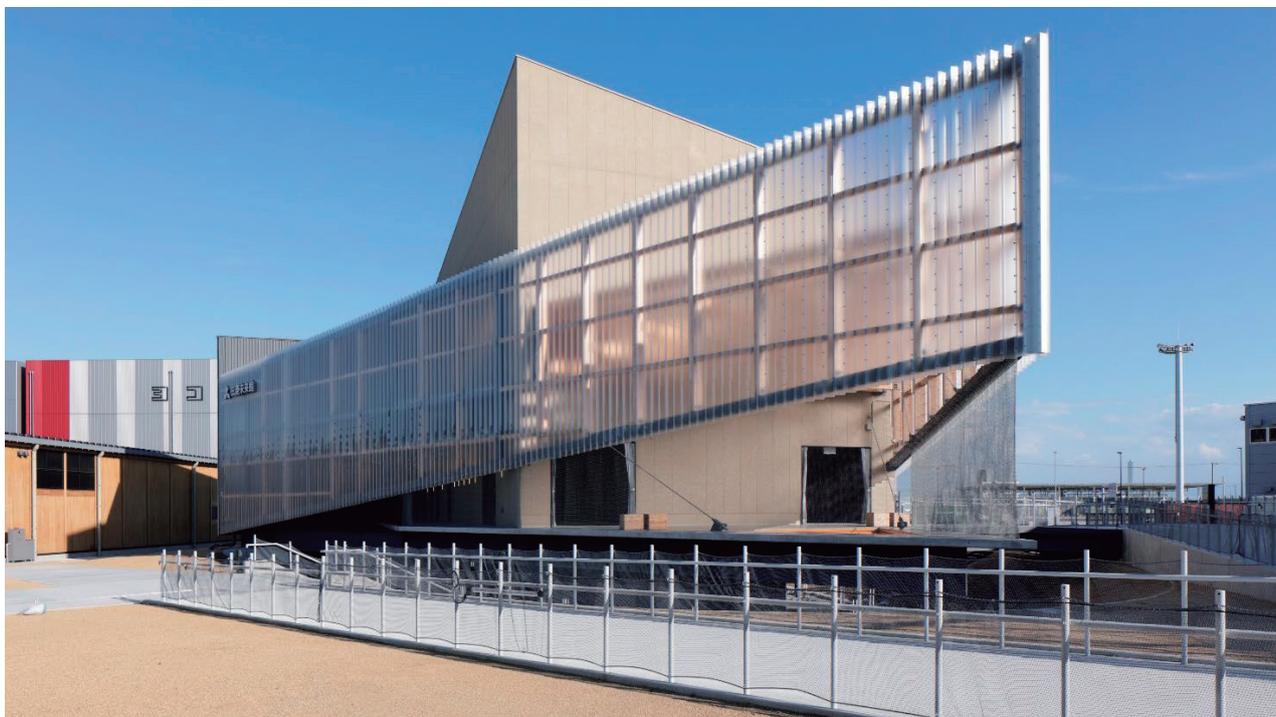


写真-1 外観写真

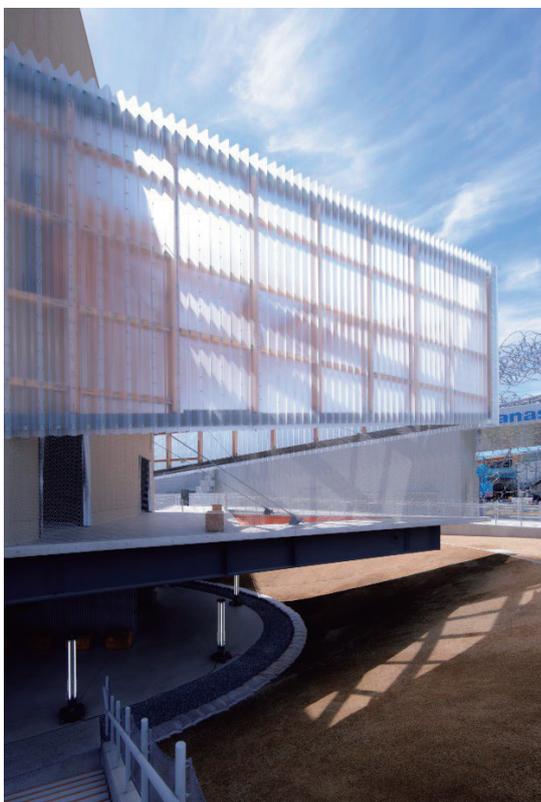


写真-2 サンカクパーク外観



写真-3 (上) サンカクパークからの眺め

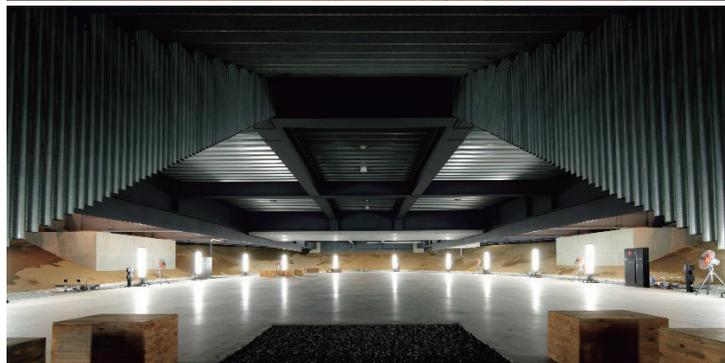


写真-4 (下) 半地下ウェイティングパーク

## 2025年日本国際博覧会 パビリオン・施設の紹介 (No.9)

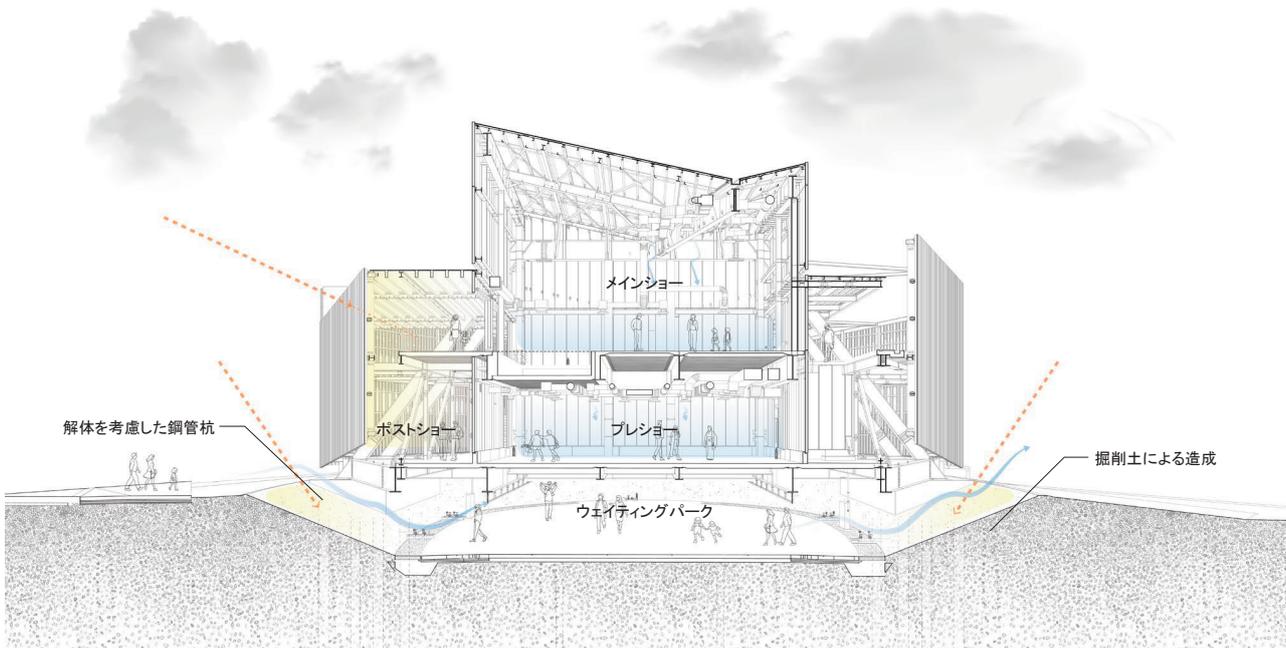


図-1 断面パース

## 【パビリオンの概要】

2025年大阪・関西万博の三菱グループパビリオンである「三菱未来館」は「生命・地球・人間」のつながりをパビリオンのコンセプトとした。地下1階・地上2階建てとし、すり鉢状の楕円形半地下空間の上にひし形が覆いかぶさるように内接し、さらにそのひし形に長方形が内接する構成とした。これらの楕円形・ひし形・長方形三つの幾何学体をそれぞれ「生命・地球・人間」に見立てることで相互に支え合う関係を建築物として表現した。

内部空間は、主となる映像展示を中心に、様々な空間を体験しながら“体内”を立体的に横断する構成となっている。来館者はまず、半地下空間の「ウェイティングパーク」に降り立つ。ここは建物が日射を遮り、冷気が流れる快適な待機スペースとなり、猛暑時の日よけ空間として全ての来場者に開放される。そこから1階の「プレショー」でガイダンス映像を視聴し、2階の「メインショー」へ進む。没入型映像体験を終えた後、再び1階へ下り、「ポストショー」を通して、最後に先端の浮遊する「サンカクパーク」へとたどり着く。

万博パビリオンは会期終了後に解体することが決まっているため、大切な地球資源である大地を「間借り」して万博が終わったらそっと元に戻せるよう、建物と地面がなるべく接しない構造とし、掘削した土は敷地内の造成に用いて埋め戻す計画とした。

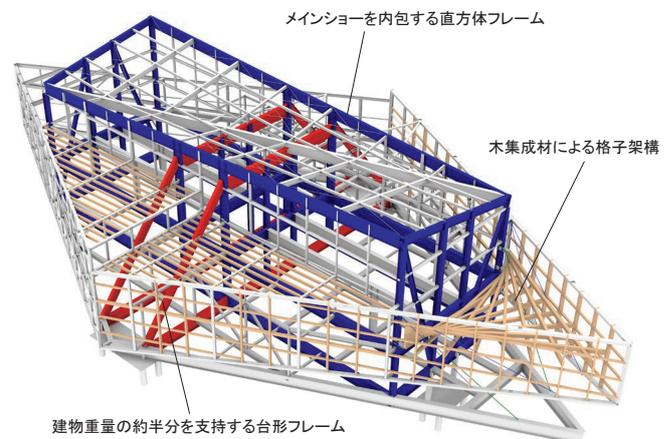


図-2 架構モデル図

## 【設計概要】

・ 建築主	三菱大阪・関西万博総合委員会
・ 設計	株式会社三菱地所設計
・ 施工	株式会社竹中工務店
・ 用途	展示場
・ 建築面積	約1,200㎡
・ 延床面積	約2,000㎡
・ 構造	鉄骨造、一部木造
・ 階数	地上2階、地下1階